

藤井宏志

本論文集は、地理学教室大学院平成7年度修了の4氏の修士論文と学部平成7年度卒業の6氏の卒業論文とを各自がまとめたものである。10の論文とも、文字通り努力の結晶である。

まず、本学の修士論文についていうと三つの特徴がある。ひとつは、4氏とも現職の教員から派遣されているということである。大学の学部で卒業論文を書いてからかなりの年月が経っている。その間、忙しい教科・生徒指導に没頭していたのである。再び研究生活をはじめするには、大きな努力が必要である。次に、入ってからのオリエンテーションで所属ゼミを決めるので、大学学部時代と異なる専門の研究を選ぶことがある。例えば、商学部や経営学部出身者が地理学教室に入ってくる。学問体系のはじめから勉強するというのも、これまた、努力以外にはない。三つめに新構想の大学院なので修士1年次に授業が多く、土日以外は殆んど時間がとれない。この限られた2年間で、研究水準の高い修士論文をまとめるのであるから、その論文は努力の結晶というほかはない。

学部にも特徴がある。同じく新構想の大学ということで、1年から4年まで、授業と教育実習とが他大学に比べはるかに充実している。4年になっても、空いた時限や曜日はほとんどない。このなかで研究・調査・分析を行い、すぐれた論文をまとめるのであるから神技である。

現職の教師であるということ、あるいは教師をめざしているというのは強みで、研究をまとめるにあたって、教材化するということを念頭においていることが多く、総合性、系統性といった点でもすぐれている。

最後に、修士論文の正本は本学図書館に、卒業論文の正本は地理学教室に常置されているので、広く利用をお願いしたい。

1996年3月22日